

高津高校＝ハンドボール＝合宿

高校 26 期 (1974 年卒) 中野 元博



高津高校＝ハンドボール＝合宿
照りつける太陽の下、走り、跳び、投げた
石川、塚正、岡部、横関、篠崎、早川、
田中、山口、中達、そして俺も
みんなまっくら 汗と泥 はずむ息
目の前が、世界が、黄色く見えた
もう限界だ 倒れる そう幾度も思った
それでも みんなで やり抜いた
人の持っている本当の力を十とすれば
自分で出せるのは七か八しかない
もうダメだと思っても 余力はあるもの
身をもって そのことを教えられた
そう これが高校時代の夏だった



石川 おまえ本当にタフだったなあ
合宿をやり抜いた あの頑張りがあれば
必ず昭子さんを幸せにしてあげられる
クラブのみんなも 応援しているからな!

このメッセージと右の写真が、1983年5月、石川光一君・昭子さんの結婚を記念して作られた文集に収められていました。



石川光一君とは、1971年、1年H組で出会い、ハンドボール部に誘われて入部しました。小柄な彼は、中学からハンドボールを続けており、先頭に立って、毎日グラウンドを走り回っていました。当時、3年と2年の先輩は合わせても4人だったので、1年生が石川君の勧誘で一気に増え、やっと試合できるメンバーが集まり、入部後すぐに対外試合に出場しました。そうとはいえ、1年生は石川君以外、ハンドボールは初心者で、パス・キャッチ・シュート・ディフェンスの練習、フォーメーションとルールなど1から学びました。数回、高1仲間と石川君の出身中学へ行って、ハンドボールで先輩との交流もしました。

OBヘッドコーチの片岡純夫先輩の熱心なご指導で徐々に力を付け、高2になると高津中学でハンドボールを経験していた者を含む後輩が多数入部してくれたので、結構、勝利を味わう機会も増えました。今でも、試合中に投げた速攻のロングパスがボールの縦回転でホップしながら一直線に仲間の手に届き、シュートに至るシーンが脳裏に浮かびます。卒業後も大学生の間は、OBで組織された高津(たかつ)クラブに所属し、月に1度程度、社会人リーグで試合をして、母校へ後輩のコーチに行っていました。

1980年に修士課程を修了して神戸製鋼所に就職してからはハンドボールで集まる機会がなかったのですが、1983年4月に大学へ助手として戻った直後、小学校の先生

になっていた石川君から結婚式の招待状が届きました。記念文集を作るからメッセージを書いてと頼まれ、「わが高校の思い出」との題でクラブ仲間の代表として寄せたのが冒頭の文章です。

昭子さんと末永く幸せに暮らしているとばかり思っていたのが、突然、石川光一君逝去の訃報に接し、どうしようもない喪失感を覚えました。人の寿命なんて、わからないものです。「今を大切に生きる」と結婚記念文集の写真の中から石川君が叫んでいるように感じられます。

2004年のOB・OG会設立総会に出席した後、塚正君が副会長となり、会の運営を全ておまかせしていましたが、2年後「PET検査で悪性リンパ腫が見つかった」と突然の連絡を受け、塚正君から副会長を引き継ぎました。早期の発見で塚正君の治療は順調に進み、副会長に復帰されて仕事と余暇で充実した日々を過ごしている様子がフェースブックで散見されます。2013年、今度は私自身が不整脈(心房細動)を発症し、カテーテル手術を受けて根治できました。

創部当時から長く続いた「OBが現役をコーチする」という伝統が復活できれば良いのですが、母校で現役を指導するには大学・社会人クラブの選手あるいは教員でなければ難しい学校環境であり、OB・OG会としては、チーム登録料や強化合宿費用の補助など財政面の支援で現役をサポートしてクラブ活動の継続を見守りたいと思います。